

研究主題：「教えないスキル」で育む力 —個別最適な学びと協働的な学びの往還で深まる学び— (下市町立下市小学校)

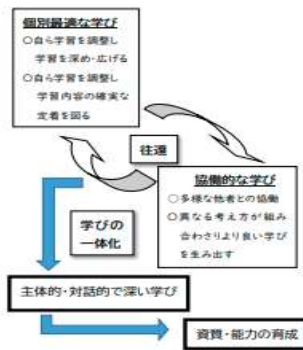
1. 研究の概要

【研究の趣旨】

・個別最適な学びと協働的な学びをバランスよく取り入れ、「教えないスキル」を意識した授業改革を行うことで、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげる。

(1) 「教えないスキル」に基づいた授業方法を取り入れた授業デザイン

- 自分で調べたり考えたりする。
- ペア・グループで話し合う。
- 図表を読み取ったり、図表で表現したりする。
- 体験的な学びを取り入れる。
- 観察・実験や調査などで考えを確かめる。
- 自分で調べ、考えをもとに考察する。
- 文章や資料を読んで、自分の考えをまとめる。
- 振り返ることを取り入れる。
- 教科横断的な授業や合科的な授業を行う。



(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還

(3) 学習活動の可視化・構造化

・NITS(独立行政法人教職員支援機構)が作成した『「主体的・対話的で深い学び」の姿(ピクトグラム)』を参考に『下市小学校学びの姿ピクトグラム』を作成。
・主体的な学び・対話的な学び・深い学びごとに色分けをし、児童にどんな学びの場なのかを意識させる。

主体的な学び



対話的な学び



深い学び



(4) アンケートの作成と実施

・全国学力・学習状況調査の児童質問紙を参考にして学校で独自にアンケートを作成し、6月と1月に実施した。

2. 研究のまとめ

(1) 「教えないスキル」に基づいた授業デザイン

「教えないスキル」に基づいた授業デザインを構成することで、体験学習や調べ学習などの主体的な活動を通して児童は経験や体験から気付きを互いに出し合い、学習の中で考えを深めることができた。体験学習や実際に経験させることの大切さを改めて感じた。

(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還に重点を置き、全学年・全教科の学習にペアやグループでの話し合い活動を取り入れた結果、自分の意見に自信をもてない児童が手を挙げて発表したり、他者の意見に共感したり、自分の意見と比べたりする姿が多く見られるようになってきた。また、1年生から相互指名しながら学習を進めることができるようになってきている。

(3) 学習活動の可視化・板書の構造化

ピクトグラムを使用した構造的な板書を取り入れることで、1時間の流れが視覚で分かり、児童は見通しをもちながら学習を進めることができた。また、振り返りを通して学習の気付きや考えの変容を見ることができた。次時への学習のめあてをもつ児童や、本時の学びから出た疑問から次の学習課題を設定する児童など、自ら課題を見いだす力の育成につながっている。

(4) アンケート結果より

6月と1月に行った児童の学習状況アンケート結果では、数値的に大きな変容が見られなかったが、記述回答では、回答の内容に変化が見られた。「自分の考えをまとめる際に、気を付けることは？」の問いに対し、6月では「字の間違いに気を付ける。」「、や。を忘れない。」など「学びの状態」を意識した回答が多かったが、1月の回答では「自分で考える。」「相手に伝わるように分かりやすくまとめる。」と、「学びの構築」を意識した回答が見られ、相手意識をもって自分の考えをしっかりとまとめる児童が増えてきた。さらに、「図や表を使って分かりやすくまとめる。」「なぜそう考えたのかの理由を付ける。」「友達の見意を取り入れる。」など、考えの可視化や理由付け、意見交流と、考えを明確にしようとする意識が見られた。

3. 研究へのコメント

個別最適な学びと協働的な学びの往還として、「教えないスキル」で育む独自の指導法を研究し、学習活動の可視化や板書の構造化等、授業者と学習者それぞれの視点からの学習デザインを構築し、具体的な実践としてまとめられた研究報告である。

今回の取組に関するアンケート結果について、記述内容に関する分析は示されているものの、数値的な分析はなされていない。数値データの分析については、平均値の比較だけにとどまるのではなく、データの散らばり等も踏まえた有意差を比較するなど、より有効なデータ活用を期待する。